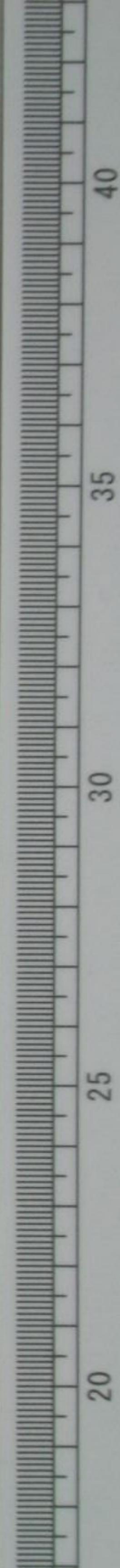


名物鹿子中



5
1810
2



5
1810
2



青
年

乃
錦
仗
系
處

遠
比
此
處

雪
井



畫
景

虎屋一之進油

花の香の大紋

秘伝

名は花市之進



音

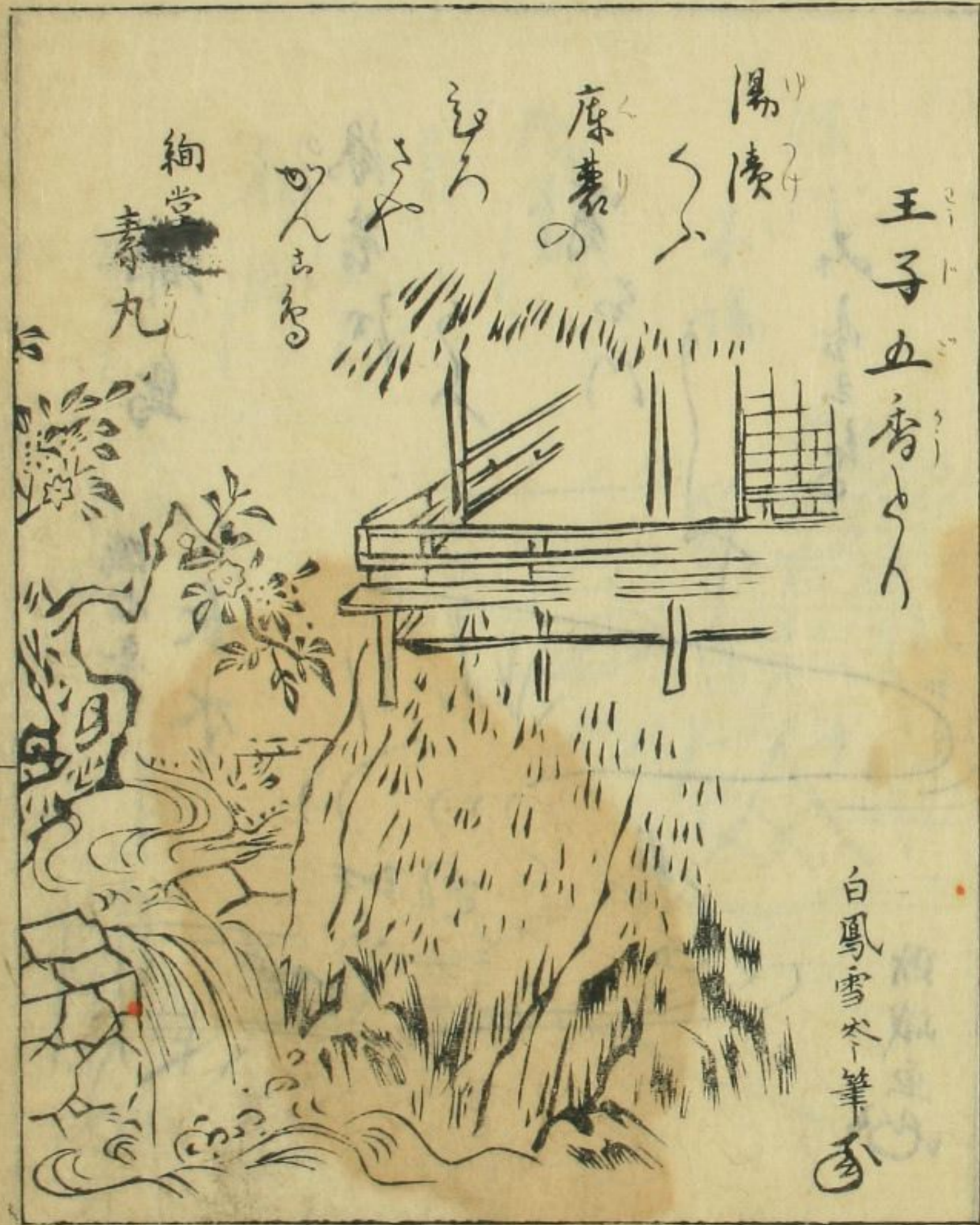
眠く寝よむを風のそよぐ

辰松の御衣

寫候



音







曙あけぼのの
 不ふ川が九く品ひん石いし

教きょう十じゅう月げつあかし

萬里亭

咫尺

英一蝶



聖宗

か
 け

町

何なに々々々々

蓮之

中五

長行虫



小田喜朝

小田

朝

小田

傳母

球香

三洲

藥王丸

兄

櫻の實いんげんのりりのりやり何なに著しやく薩さつ

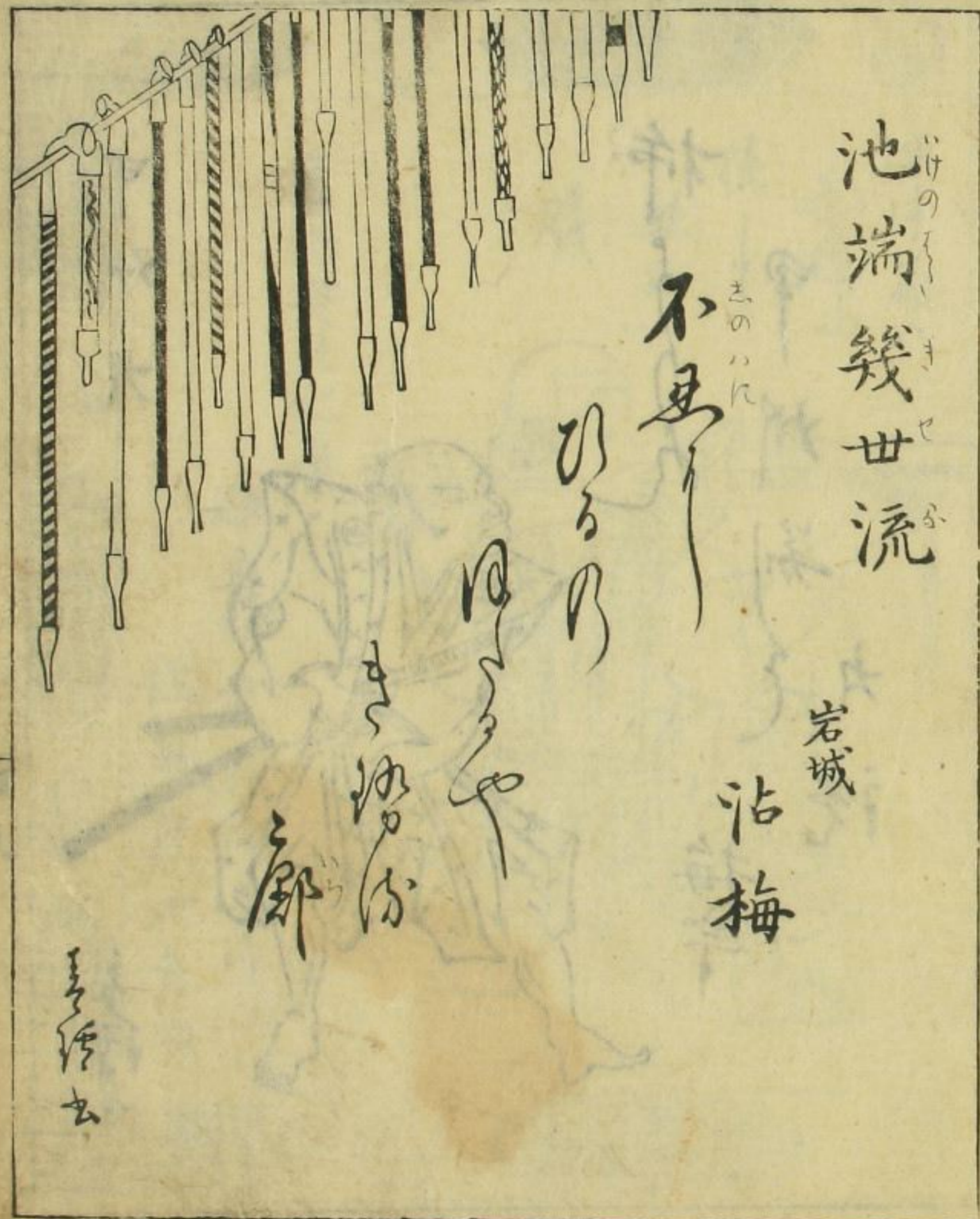
三洲吉田洞口

弟

金かねのの著しやく薩さつ男おとこのの實いんげん

杉立門木昌







酒中花ハ

菊キク小

狭ヒナ一

熊クマ乃

膽タン

享保癸丑之夏

題奥州熊膽傳三郎

鶴帘弍池有画

甲州丸

柿カキ丸

甲州丸
九鏡

梅宇



甲九

三郎



只乃名仙也

祝三喜たひき

ねのり地

花の

かさい振ほ



虬三ノ龍三ノ舎三ノ雨三ノ域三ノ自三ノ画三ノ

葛三ノ飾三ノ念三ノ仏三ノ

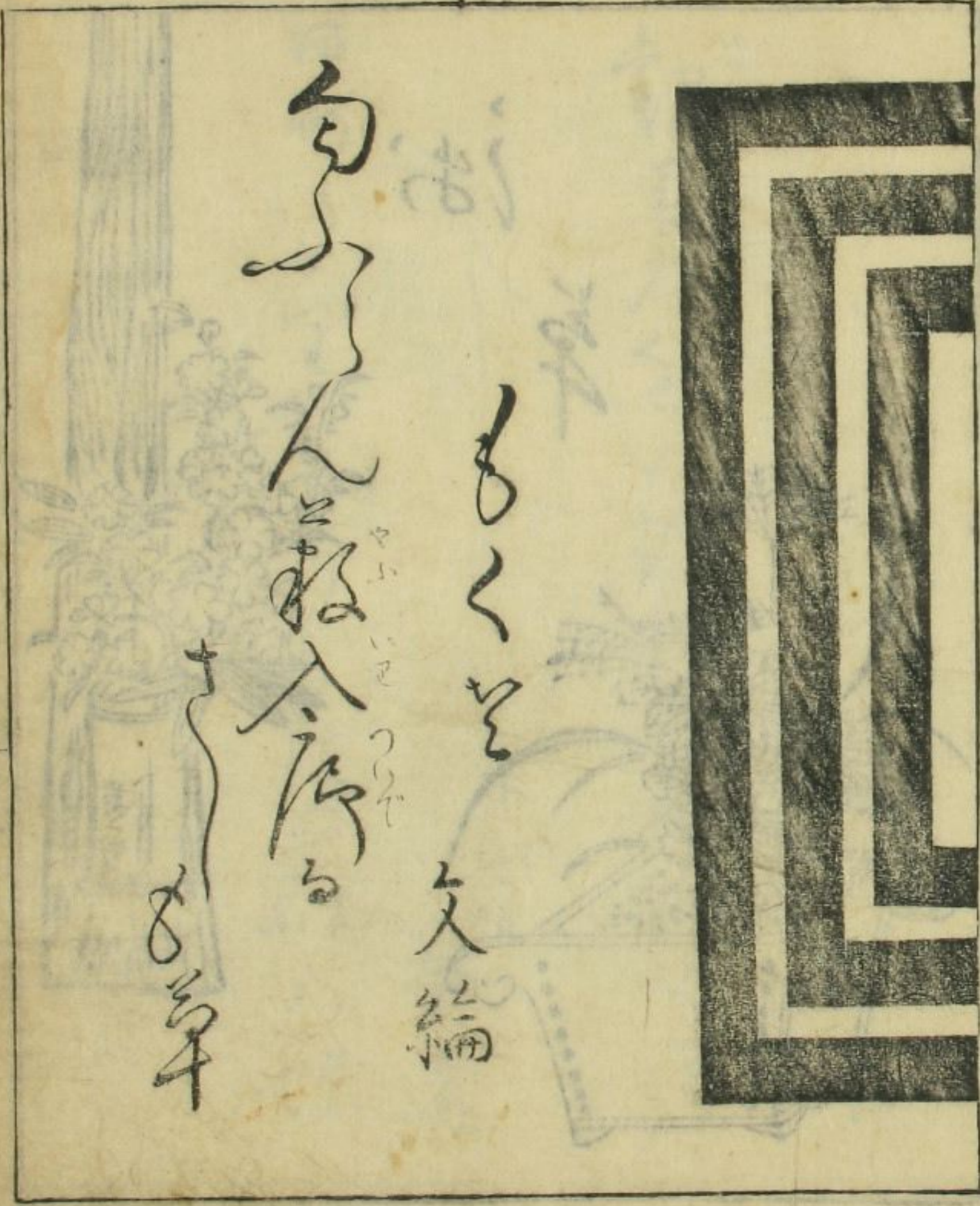
題三ノ品三ノ川三ノ海三ノ菩三ノ

明三ノの三ノま三ノち三ノ

東三ノ海三ノ寺三ノ

象三ノを三ノ守三ノ財三ノ域三ノ

海上
禅林



海
草



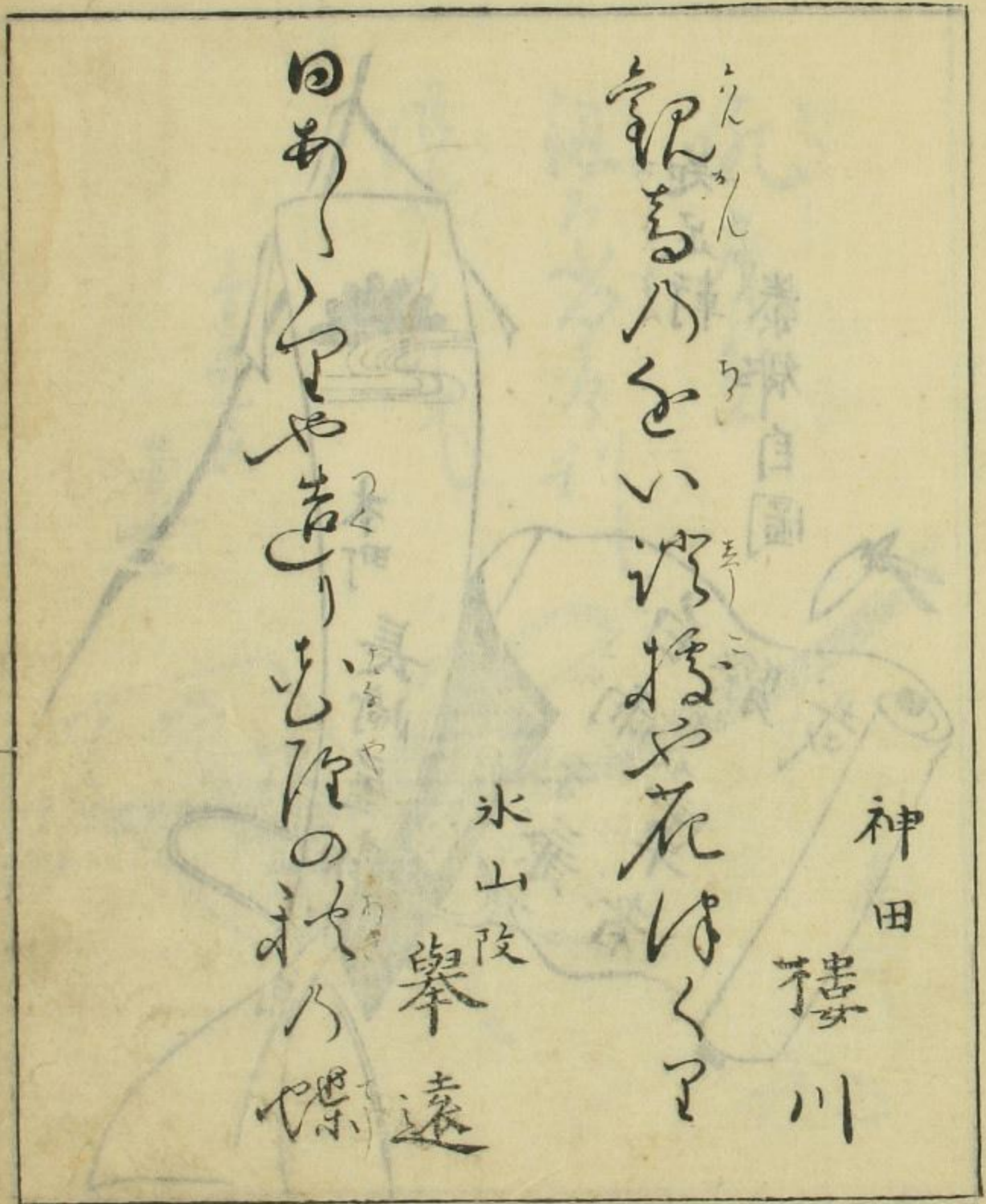
中十三

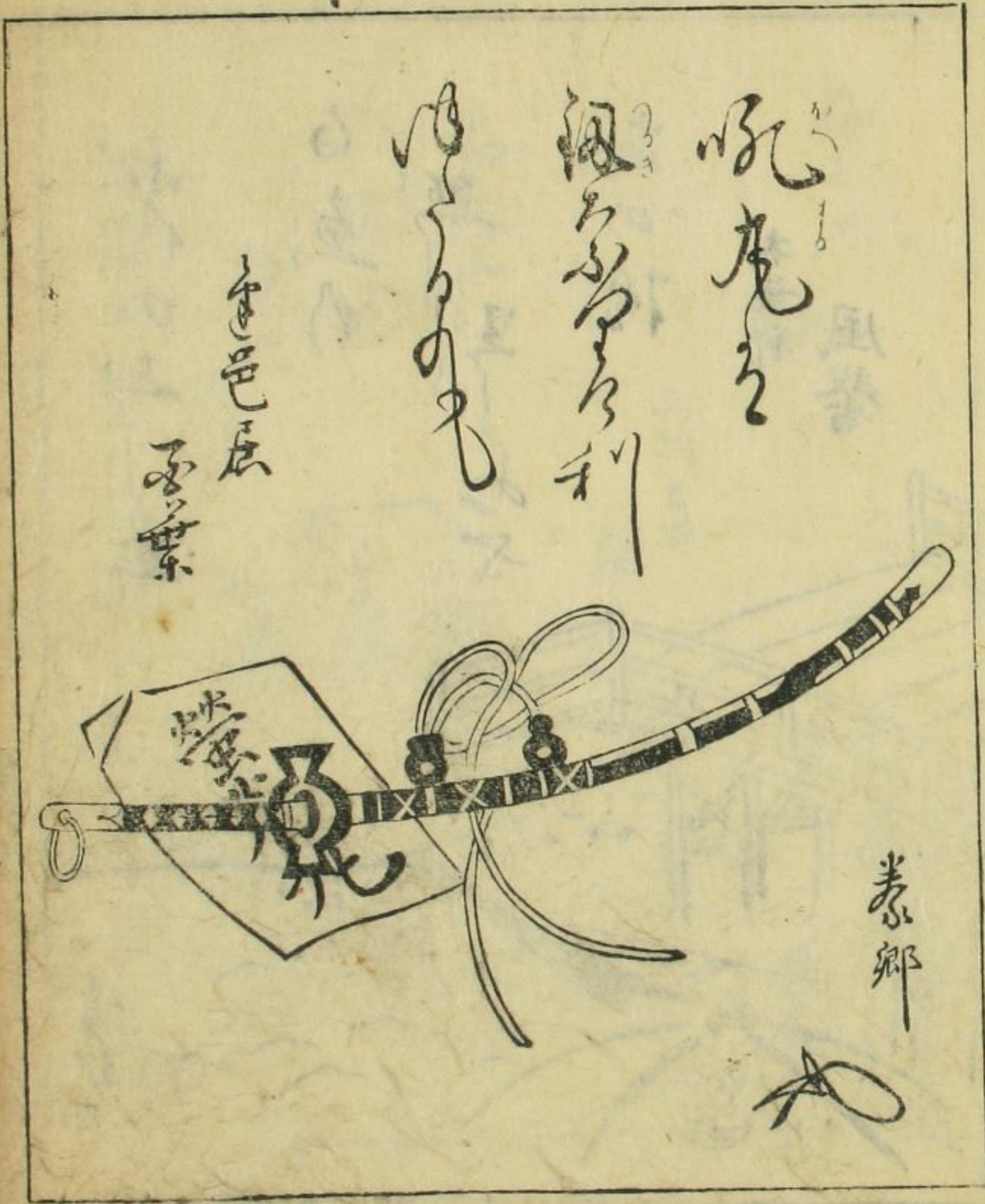
親馬八をい
海援也花付く

神田
樓川

氷山
段
舉
遠

日あし
ふも若り
心原の秋
人際







為の川
蟻

三洲吉田

翠行

高橋

坂

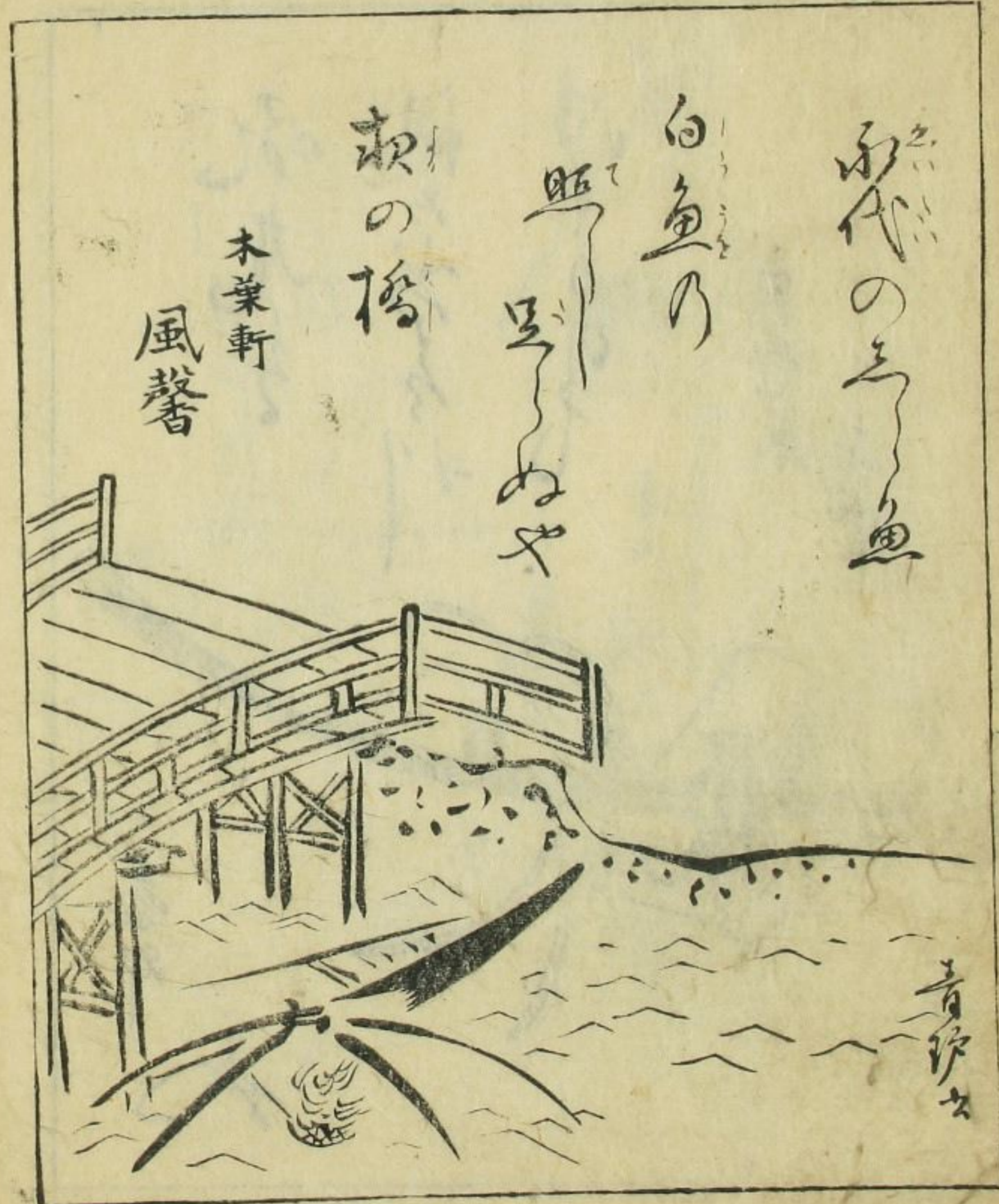
軒

乃

心
着

七
六

めい



水代の三魚

白魚

照
引
ぬや

瀬の橋

木葉軒

風馨

中
十五

音
彦
女



清水夏大根程

大根えんえん

清水

松葉軒
葉揚

中十七

まげ

三浦



深川干編

対象出

河の實

登死

洲候一

島

南燭堂

指水

中十六

横山町

花産織

織中

何の産物か

はたけ

来紫



山之財城學楠画也

守隨秤

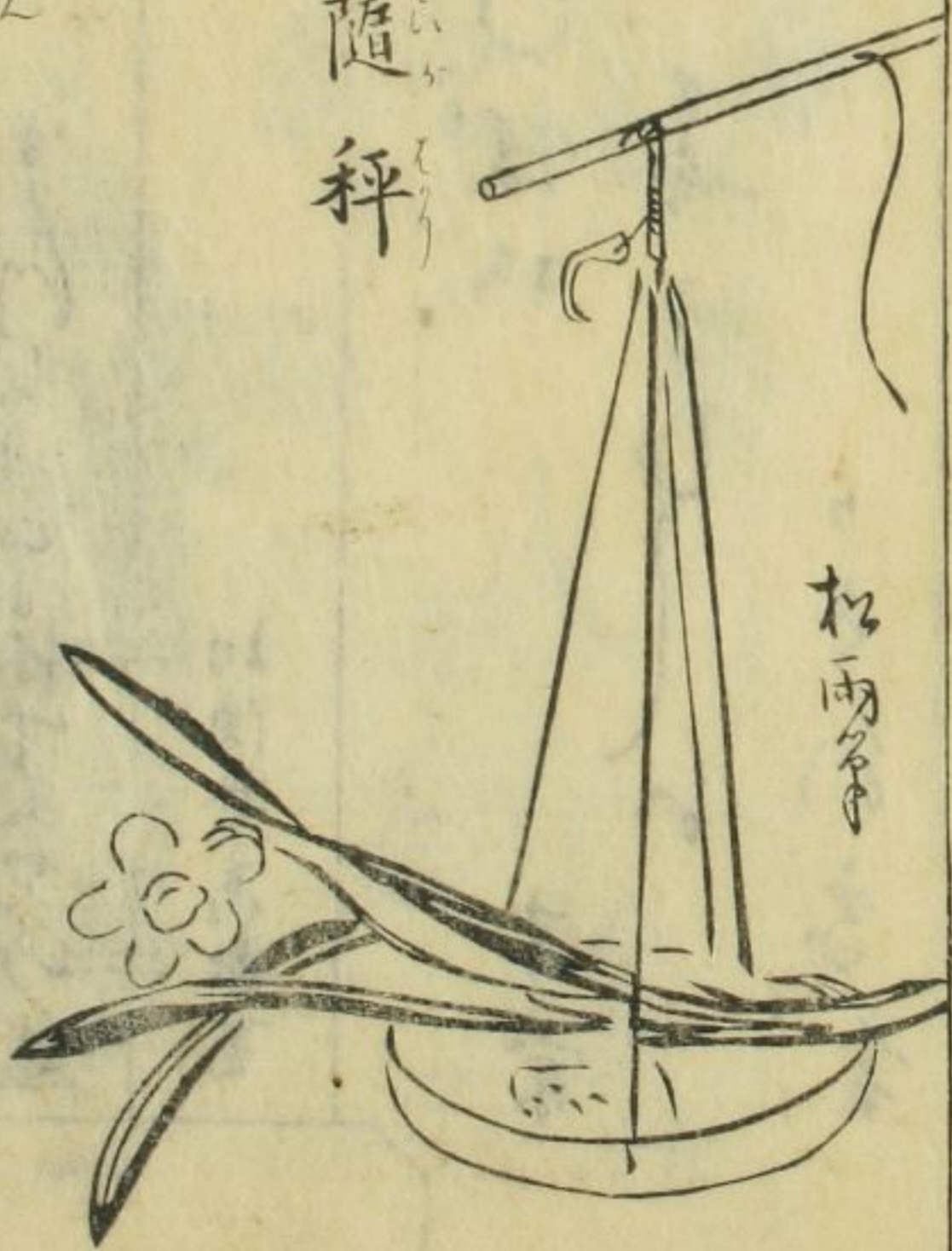
水心乃

壹石

秤の如

菜鶴

松兩子





舞
の
台

や
舞
の
台

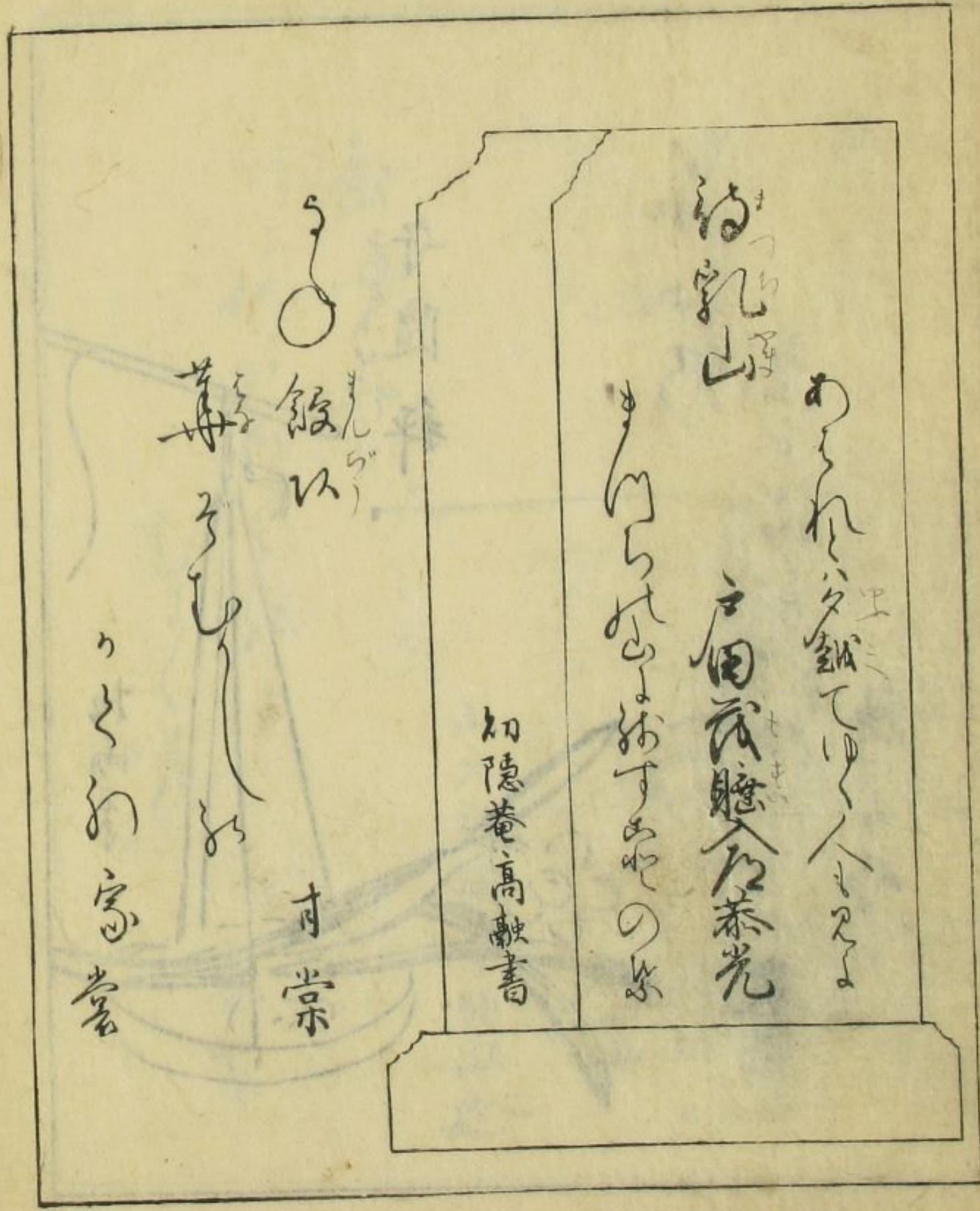
春

花

あ

あ
か
し

あ
か
し



の
山

あ
か
し
の
山

あ
か
し
の
山

あ
か
し
の
山

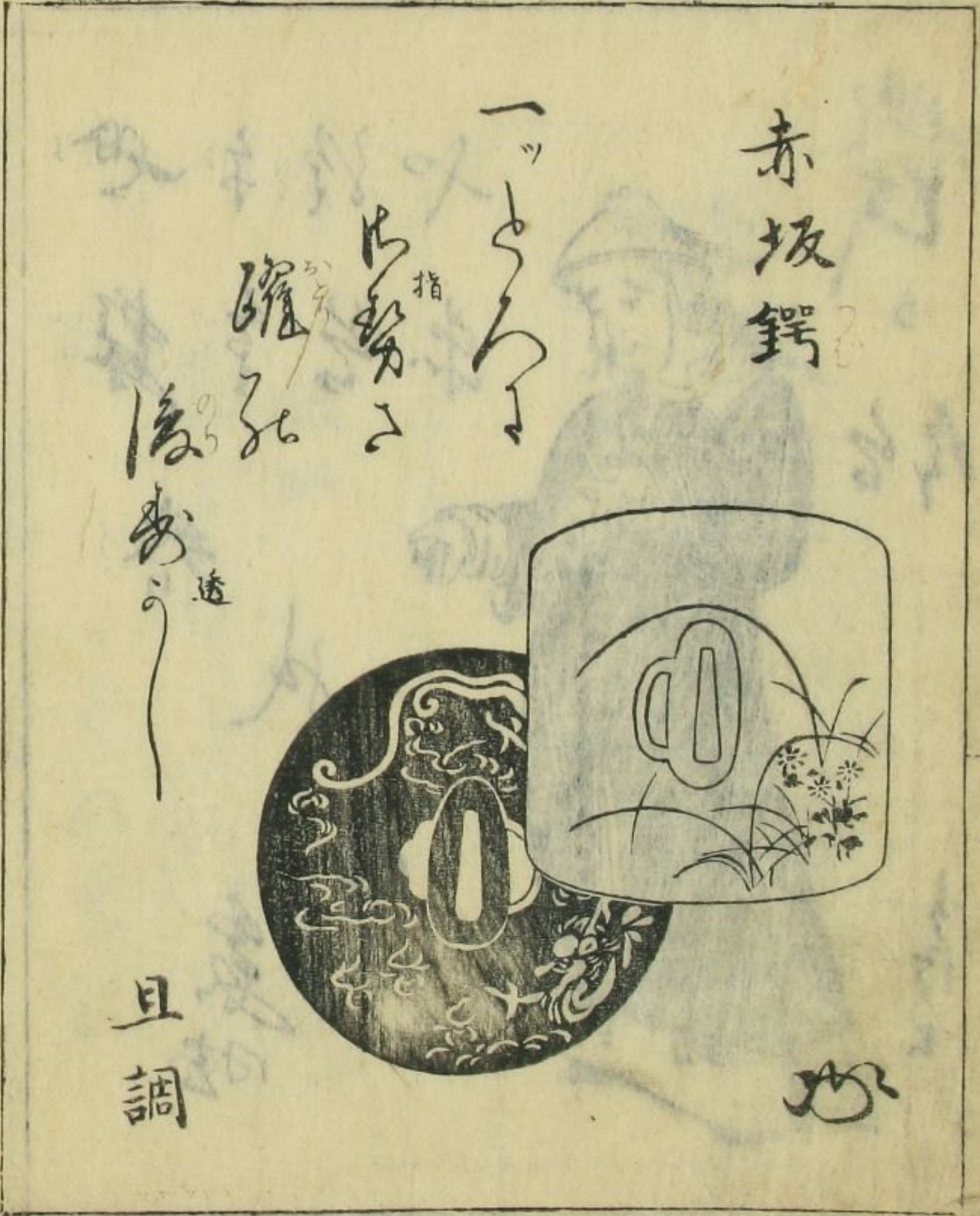
初
隱
菴
高
融
書

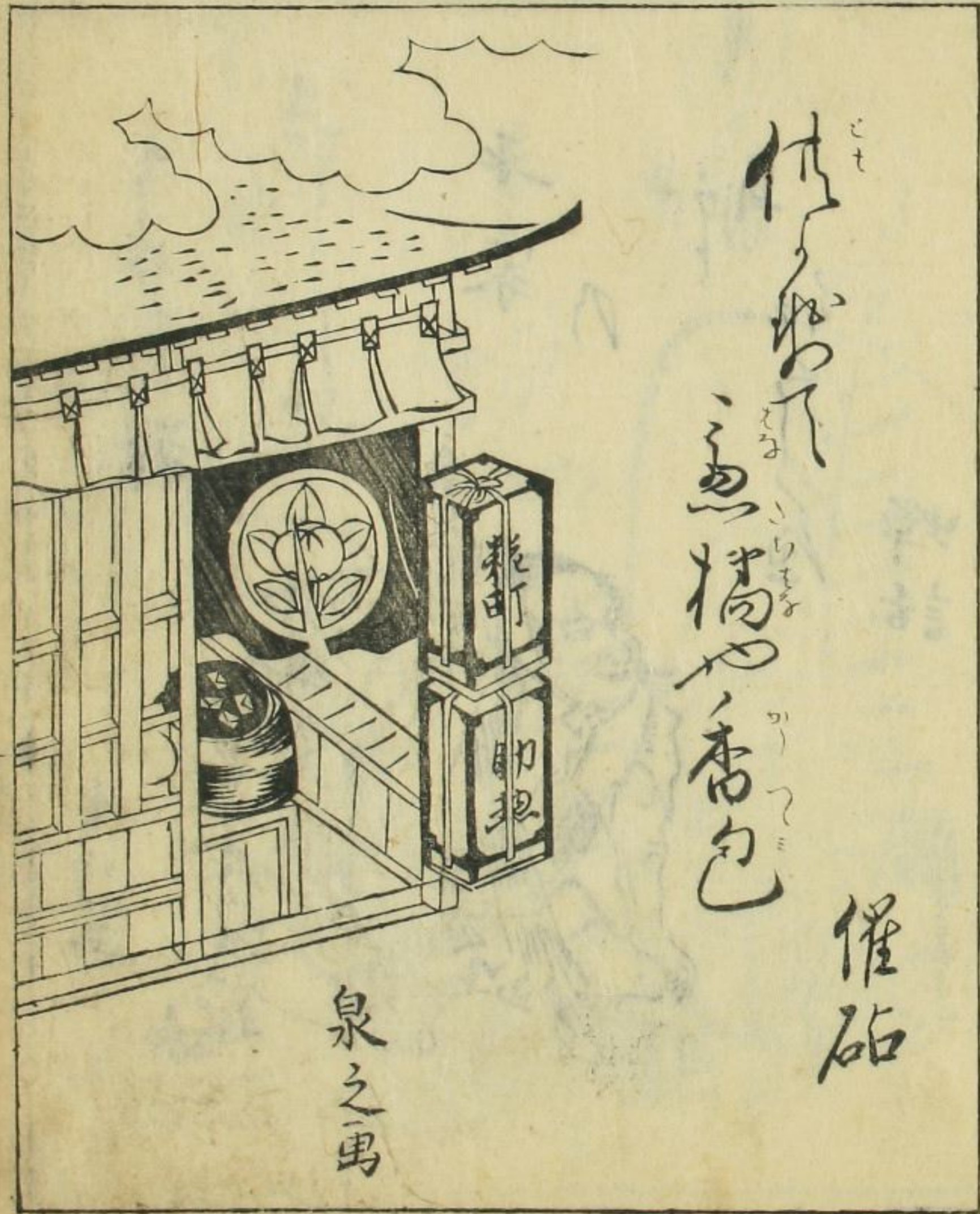
あ
か
し

あ
か
し

あ
か
し

あ
か
し





竹の葉下
 花町
 卯起
 催石

泉之禹



右高の橋

木弓と

兼と

念もん

五二日

羽及鹿田

泰秋

白鳳筆



裏大根

花根ハネ

大根ダイコン

揚屋ヨウヤ
如桂

心



蝶テフ

時トキ

平家ヘイケ

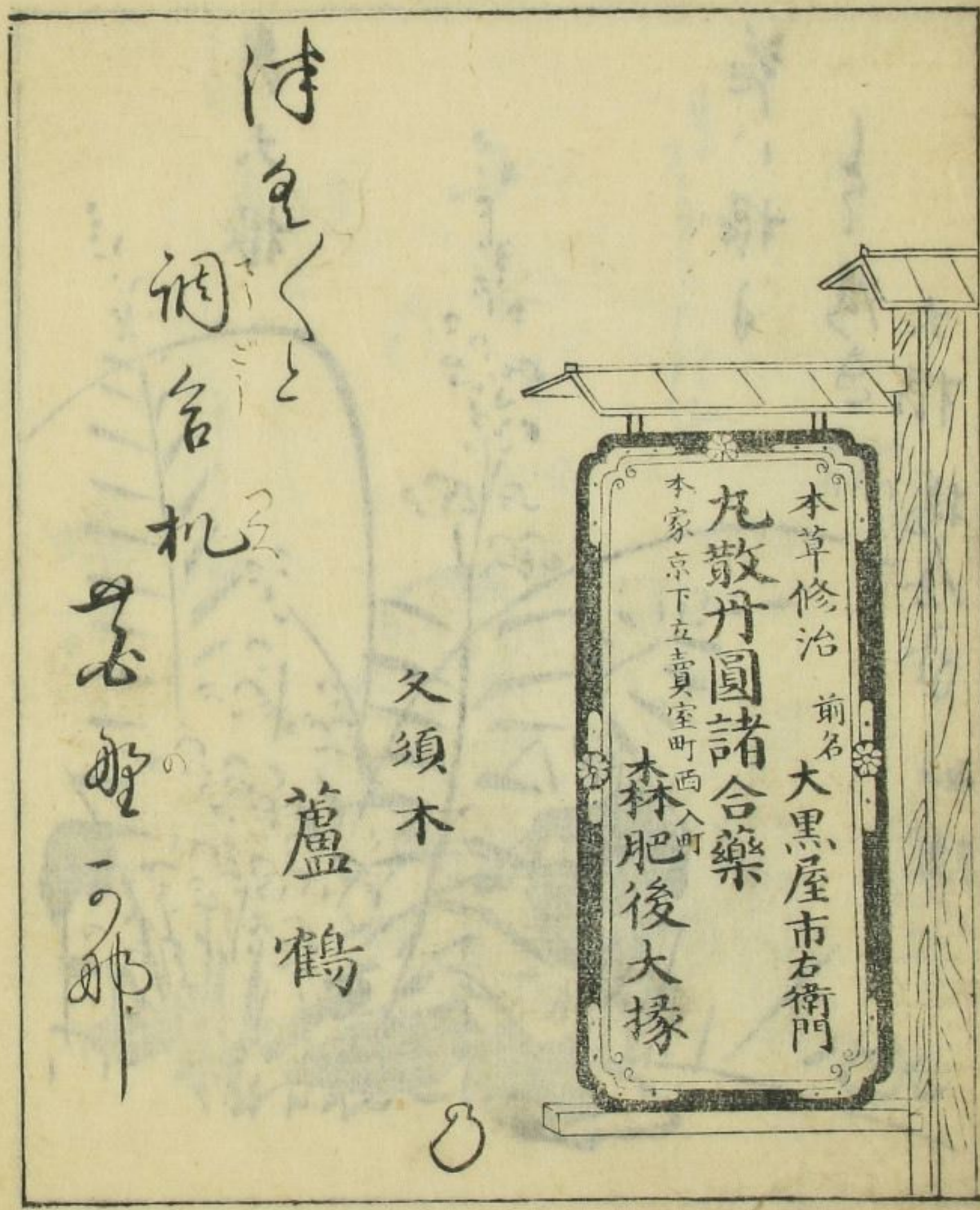
舟フネ

紅ベニ

蝉話

青繪画

中



本町
益田目薬

之
鏡の

益
あま

香
りり

玉
霊香

樂
舎
止
水

雲
岑
筆



竹
皮

鉛
え

阿
比

肩

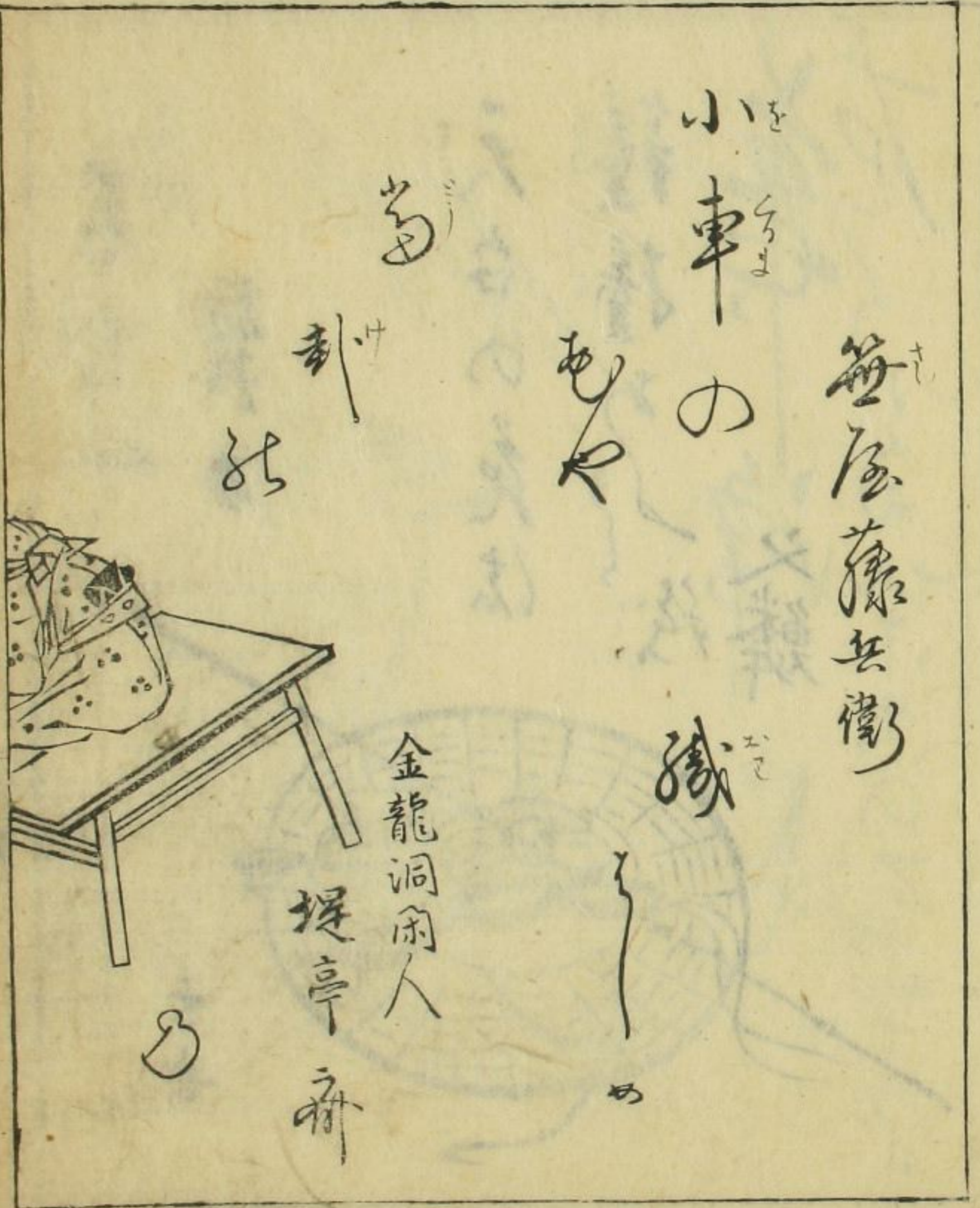
さ
き
紀

芝
三
官
鉛

平
文
國
一
名
と
り
自
畫







小車こぐるまの

毎屋藤兵衛

あ

織オリ

あ

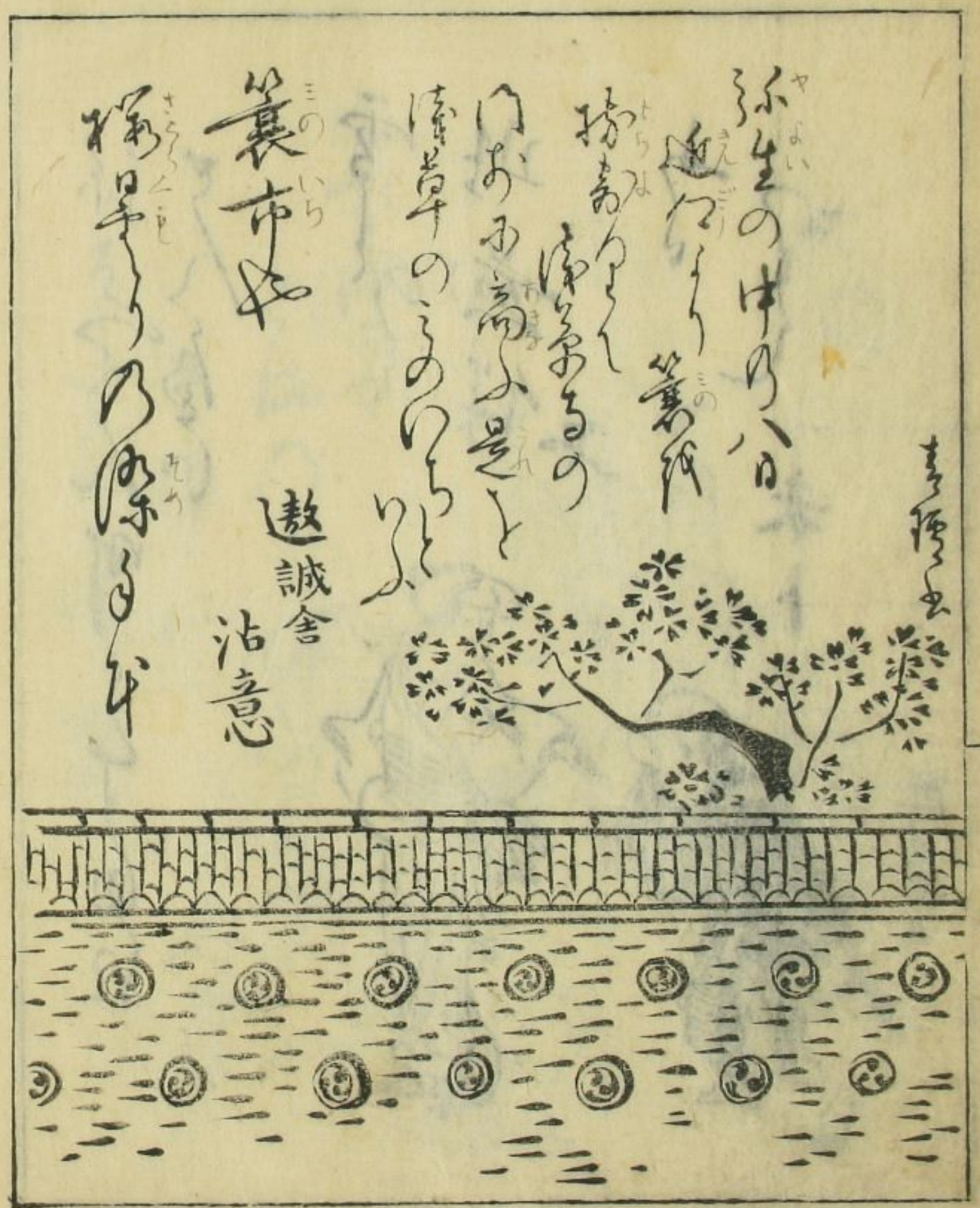
あ

あ

金龍洞雨人

堤亭齋

あ



弥生やよいの中なかのの八やち日ひ

遊あそびあそびあそびあそ

あ

あ

あ

箕市みつまる女め

遊誠舎

注意

あ

あ

あ

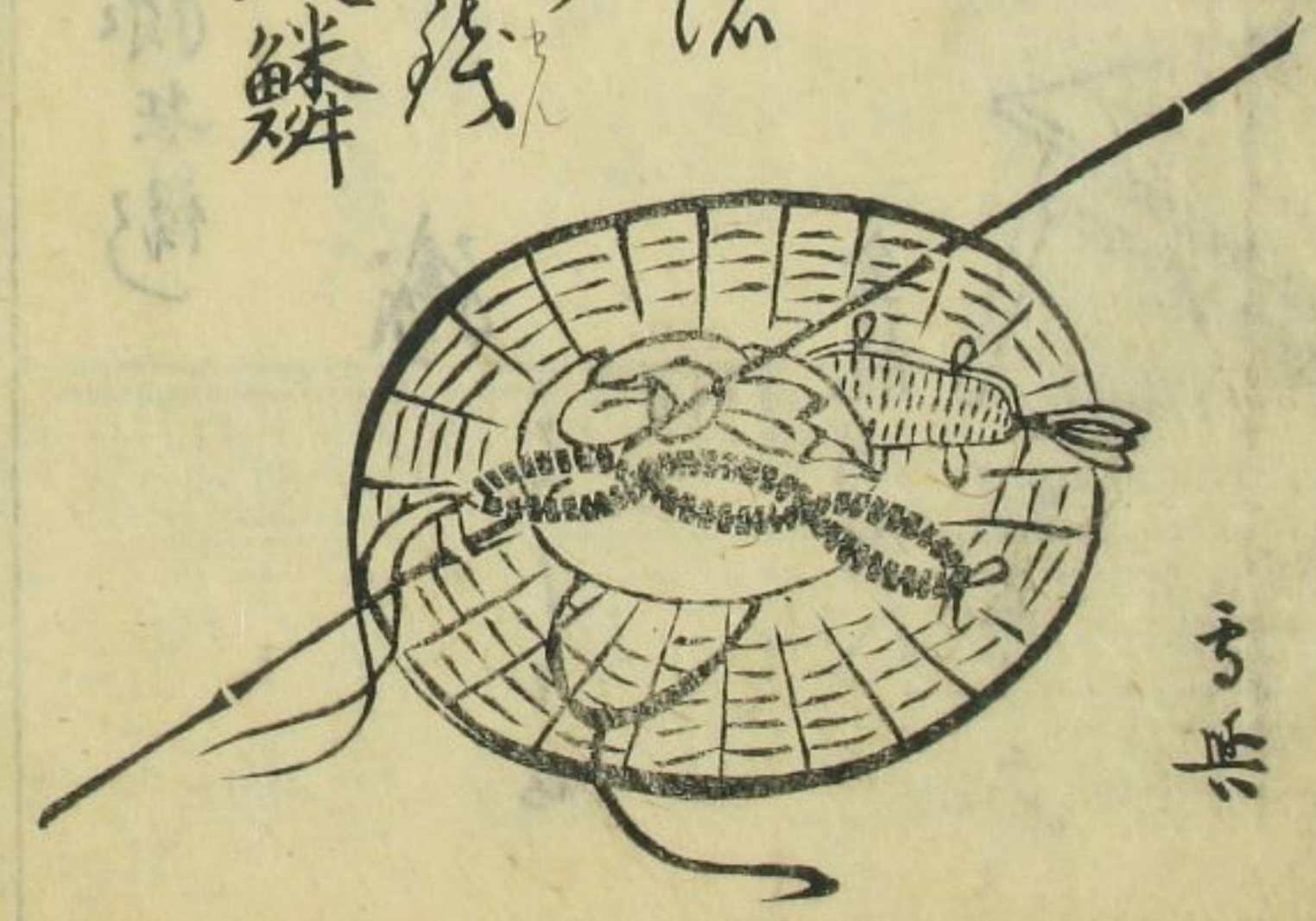
馬喰町

旅籠屋

天台の花法

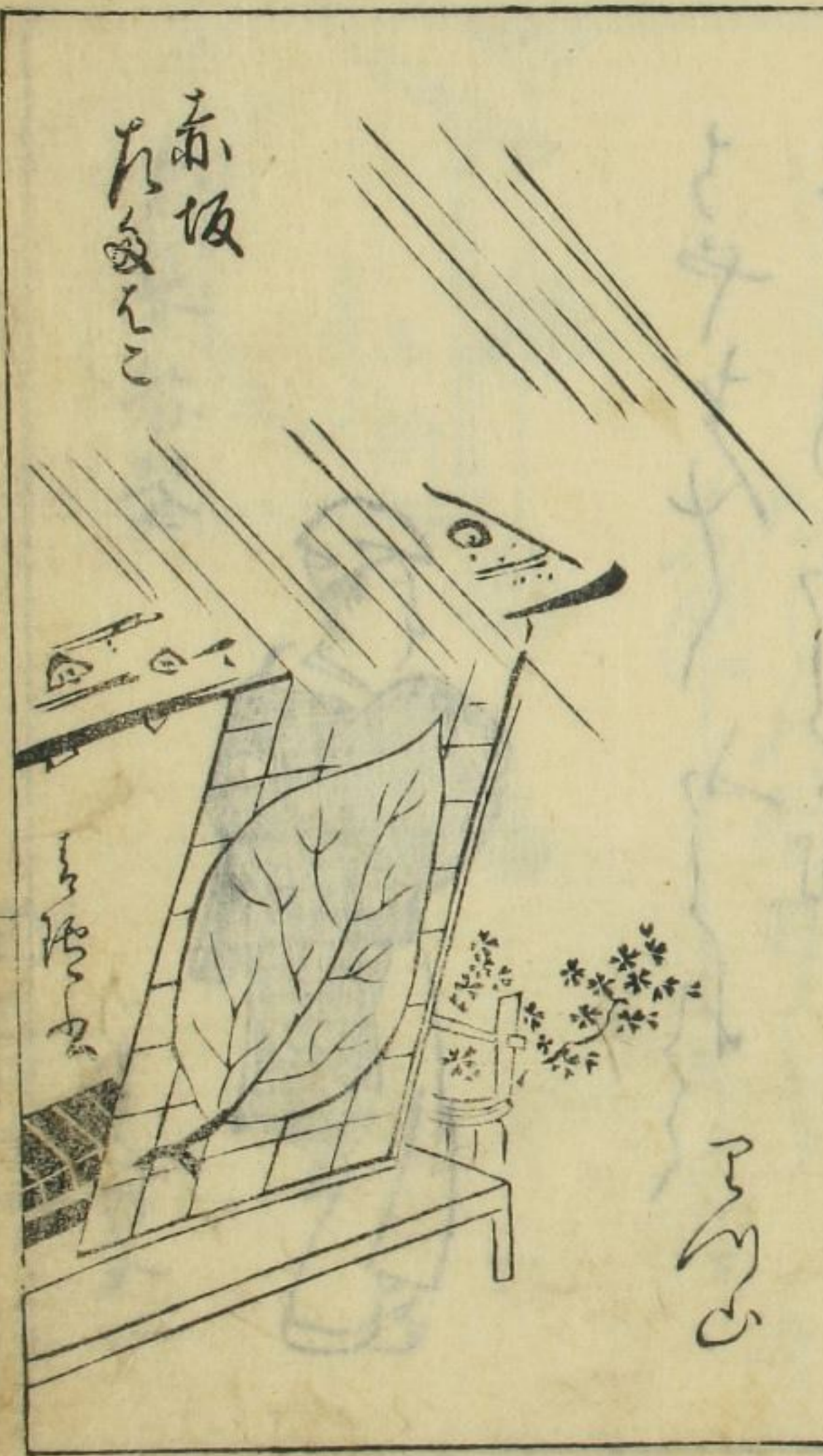
鐘撞あし

鱗



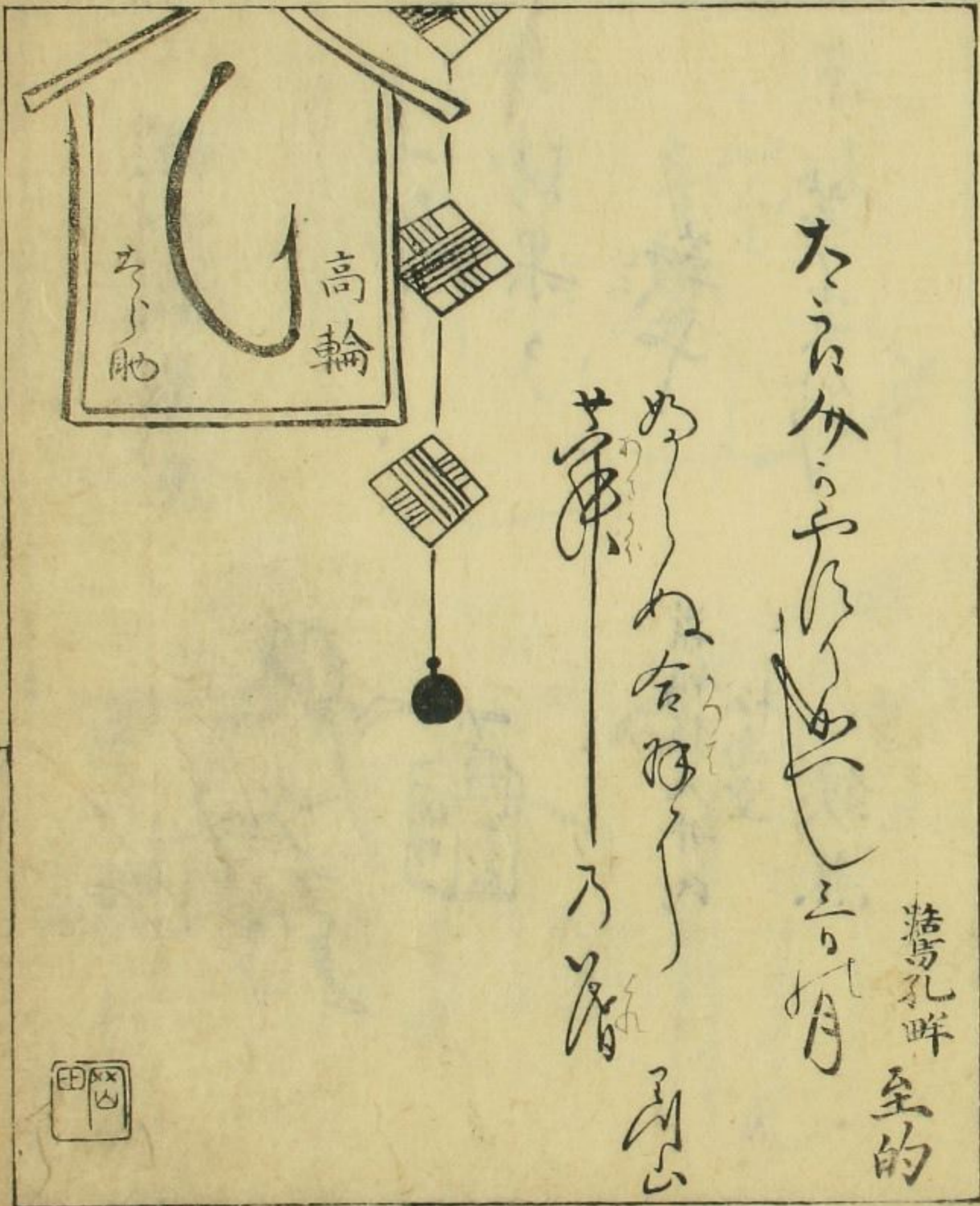
子無

大正十一年三月廿一日



赤坂

大正十一年



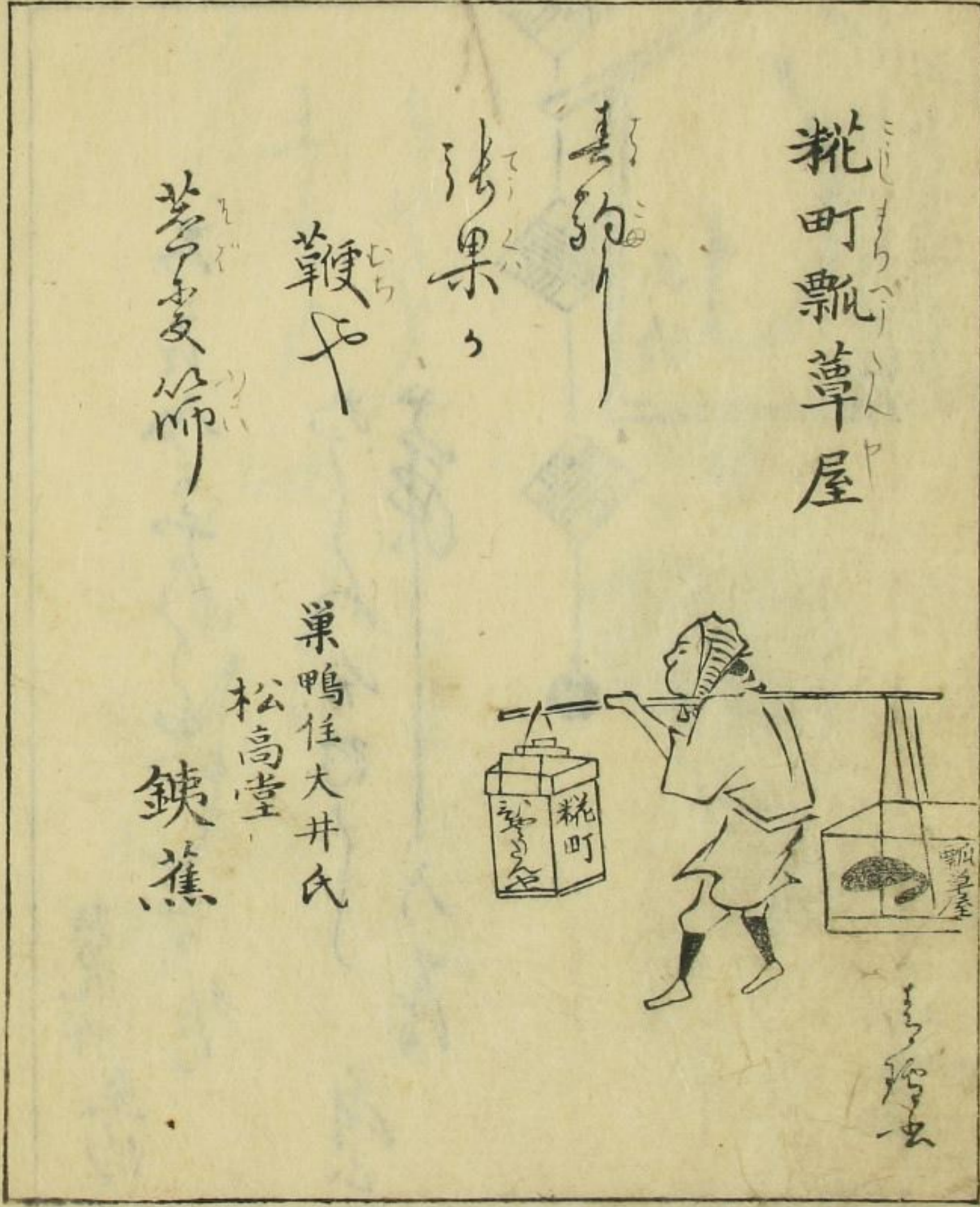
浅草茶筌



ちやきん
きりぎりす

一葉亭
秋扇

三日月





長約子紙

月意の籠

音雪之

川口屋

川口屋

芝居巻
志靜

通町小間丸

廓筋里

指筈

丁馬也



白石

石川室書

芝肴

舞臺干乃

中江

月

水之

壽鶴亭

高江



水

約込

富士

子福者此

店

富士園

内卷肴

水巴



音雪虫

水之舟
音舟

天満のや



まはる

冬まき

河乃舟

砥舩

芝
地ノ綱

くまの綱
くまの綱
細

沾水

角所
般入

老の舟
作舟

傘車

田所
多梨舟

田所
田所

仙水

舟
火舟

稲葉舟
舟

和文

こ 色 い 一 心

白声
予う業成自ま句成せよと強て

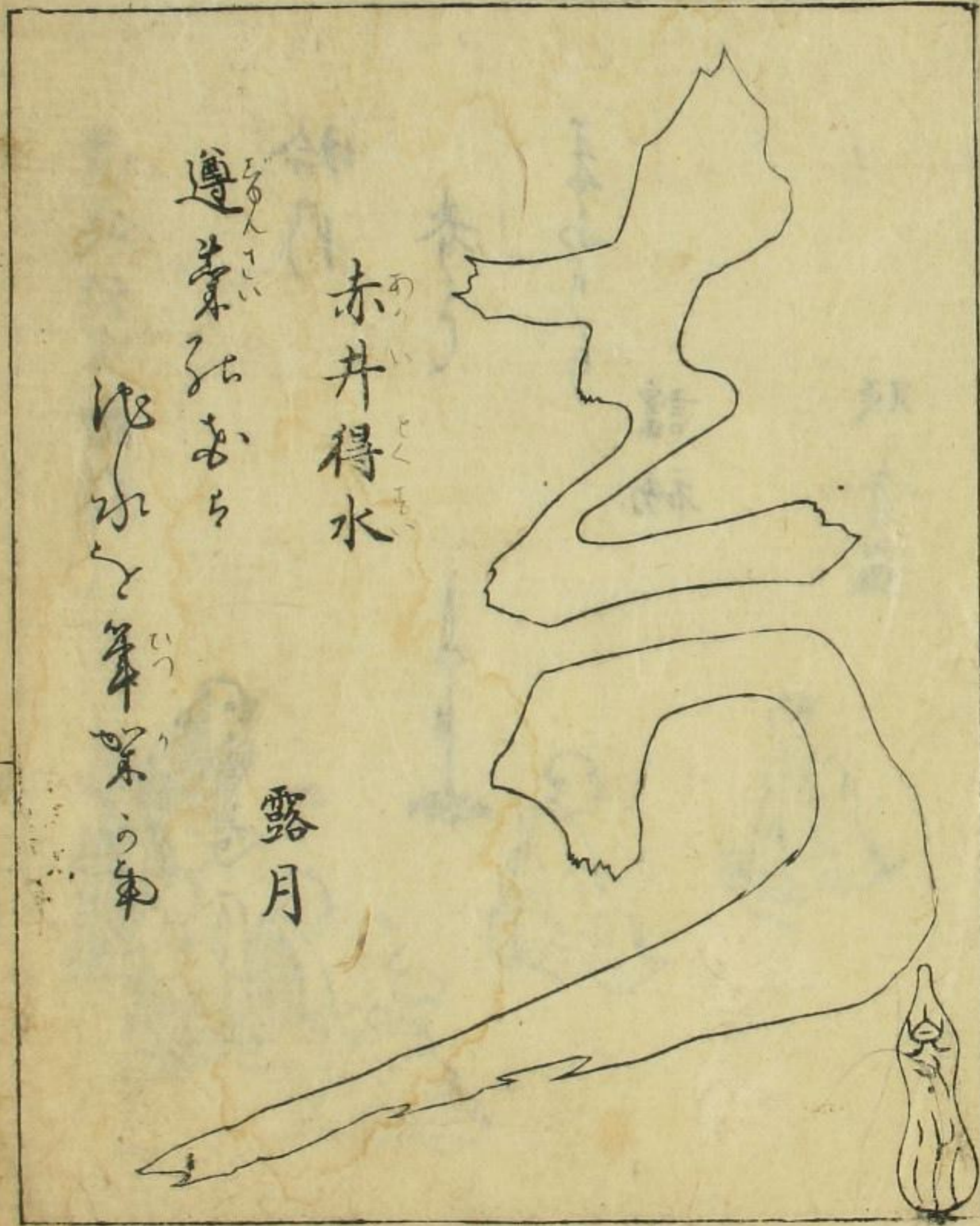
所をせしむるもたしくてかあり

下ケ
すれと上戸の酒と求ふ所

三三三
花乃笑あ人 角上

大は太る子業れまなるが

小香有ふらして
居物に加ゆらよのえ



赤井得水

露月

遵業弘あら

池水と筆業の事



豊嶋治左衛門

吟うた乃

春はる

身み乃なり

謡うた初はつ

販うり青あお壚いろ



